横浜いのちの電話

広報82号
2011.11.1

社会福祉法人　横浜いのちの電話
事務局　〒240-8691　日本郵便保土ヶ谷支店私書箱32号　TEL. 045-333-6163
発行人　永野　肇　　横浜いのちの電話広報担当（澤野・十川・堀木）
制作　Visual Communication Design Convivia

3.11以後の
わたしたちの思いを
わかちあいましょう

被災地に行ってみなければ
と思った
惨状を記憶にしっかり刻みつけねば
と思った
現状を目の当たりにして
写真など撮る自分や仲間の姿以外
誰もいない

案内してくれた友がつぶやいた
正直言って写真でなく
こころのフィルムに収めて欲しいと・・・

福島県豊間海岸付近

日本いのちの電話連盟
震災ダイヤル
0120-556-189

岩手・宮城・福島・茨城
4県の被災者のために
日本いのちの電話連盟の
40センターが毎日交代で
対応しています

東日本大震災

3.11以後 わたしたちが考えた

電話相談員10人にききました

被災地で感じたこと

震災3週間後の4/1に仙台へ。高速バスでお隣に座った方の話「3/11は徒歩で10時間以上かけて帰宅。自宅付近は液状化で、今も非常に苦労している。また、宮城の実家も母屋は傾き、納屋で生活をしている。でも内陸だから、津波の被害はなかった。だから、私は、激甚地区の方々への援助者にならなければいけないのだ。」ものすごい心のパワーです。私も精一杯やらねばと身が引き締まりました。同時に、こうやって、理性で胸の奥底に押しつぶした、怒りや失望、深い悲しみの吐き出し口として、なんとかお役に立ちたいとの思いも強くなりました。

テレビで映る激甚地区の悲惨さは心つぶれる思いです。少しずつでも前に進むことの、なんと大きなエネルギーが必要なことか！でも、それとは別に、スポットの当たっていない場所や人々も、色々な立場で色々なつらさ、大変さがあることを身にしみて感じました。これは、現地に行かないと感じられなかった貴重な経験だったし、伝える義務を感じました。(T.I ／男)

他者の善意を信じる

マスコミは連日、放射能汚染や拡散、またその脅威について報道する一方で、それによっておこった風評被害を伝えています。放射能はそんなに恐ろしいものでしょうか。放射能は自然界に普通に存在しているものであり、また、医療分野での放射線治療はすでに日常的になっています。放射能は完全な悪者なのではなく、私たちがどのように付き合うかによって、危険なものにも有効なものにもなるのだと思います。残念ながら、今回の原発事故を通じて、私たちが原子力発電や放射能を扱うのに、まだまだ勉強不足であることがわかりました。しかし、現場で復旧作業を命がけで行っている人々や研究者の能力や努力といったものを、もっと信用してもいいのではないでしょうか。本当に放射能が生命の危険を脅かす危険な状況にあるのなら、彼らがもっと警鐘を鳴らしているはずです。私たちはただ報道に踊らされるのではなく、冷静な態度をとることが必要なのではないしょうか。私は、人間の「可能性」や「良識」といったものを信じ、それに対して希望をもっています。この「他者の善意を信じる」という点に、人間の価値を高めるものがあり、よりよい未来があると信じるからです。 (T.S./53歳/女)

3.11震災で求められていること

私たちは3月11日の東日本大震災と原発事故による放射能汚染の拡大によって、かつてない戸惑い、疑い、不安そして焦りを誰もが感じています。今の状況は、私たちにとって厳しい試練であります。特に原発事故による放射能の拡散は、原発を享受してきた私たちにとって、大きな課題を突きつけられています。

原発を享受してきました。震災でこれらのことが根本から問われています。私たち一人一人が自らの生き方と考え方を問い返す時ではないでしょうか。これまでの価値観や概念までも大きく変える時ではないでしょうか。

カトリック司祭のアントニー・デ・メロの言葉に「あなたが変わるのを止めるその日、あなたは生きることを止める」があります。人はどんな時でも変わる勇気を持つこと、そして周囲の人々のいのちへの歩み・寄り添いを忘れないことではないでしょうか。(H.N ／ 64歳／男)

「想定外」まで覚悟して

東日本大震災から約2カ月後、浦安市在住の友人と会った。彼女によると、液状化もひどかったが、水が退いた後の砂埃が大変で、「風で砂が立ち上がる感じで、壁になって迫って来るのよ。面白かったな！」と言う。「どうして、そんなに明るく話せるの？」と聞くと、埋立地ではどんな事態が起こり得るかよく調べて転居したから、常に「覚悟」があって、確かに怖かったけどあわてはしなかった、と言った。

私はすっかり感心してしまった！今の私にどんな備えがあるか？想定外の事柄への備えとは何か？恐怖感に勝る覚悟はどこから来るのか？…

聖書に、神のくださる平安があるという。心の奥不覚に揺るぎない「覚悟」を持つことができたら、もっと人生が楽しくなるような気がする。

(S. A ／ 48歳／女)

穏やかな海を眺めて振り返る

職場の友人の故郷である福島県いわき市の海岸を案内してもらった。原発からは離れているが、海岸の様子は遠浅の海水浴場で、隣にすぐ住宅や旅館が建ち並んでいるという景観だ。広々として穏やかな海を眺めて振り返ると、地面の上になにもない空間が続いている。見えるのは家の土台のみだ。破壊された家屋は取り除かれ、所々草花が茂っている。あたりには人の気配がない。津波の衝撃の凄まじさを伝えるのは、道路脇に転がっている厚みが1mもありそうなコンクリの堤防の残骸である。失われた命と残された命の間には、音もなく自然の営みが続いているだけだ。地震のメカニズムは、地球が生きて活動し蓄えられたストレスを一気にはき出す現象であり、人間を裁くために出現したわけではない。過去に経験した被災を歴史から学んでいないことは人災になるのだろう。想定外という言葉は免罪符にはならない。未来を担う子ども達と共有しなければならないのは、生きることの意味を語り合うことと、想像力のある生き方を身につけることだと思った。(K.H ／ 62歳／男)

こと

原発は嫌よね

3月11日から半年が経った。津波や原子力発電の事故は、これまでの私の価値観を変えざるを得ない位、とんでもない衝撃だった。いつ、どんな風に自分の存在が奪われるか分からないのだから、今の日常を悔いのないものにしたい。と強く思ったはずなのに、半年経った今、被災地のがれきの山の風景も、福島の原発避難者の生活を想像する気持ちも、少しずつ遠くなってしまっている。

特に原発事故は、後始末をどうするのか、原子力に変わるエネルギー創出をどうするのか、放射能被害をどう受け止めれば良いのか、等々私のキャパを超えることばかりで、私自身がどうすれば良いのか途方に暮れる。

とりあえずできることは節電、それと原発について極力話題にすること。自分が動いていると、色々な人と出会い、情報も入ってくるし、思いがけず新しい展開が広がったりするかもしれない。小さな声でもいいから言い続けようと思う。原発って嫌よね。

(M. K ／ 60歳／女)

電力不足によるライフスタイルの変革

震災直後当たり前の事が当たり前でなくなった。朝は電車に乗って会社に行くもの。信号・街灯は点いているもの。事務所の空調、照明、空調はついているもの。「電気」というものの存在が、今までの生活なかで「空気」と同じものではないという、至極あたり前のことにあらためて気付かされた日々であった。その後も電力の供給不足を契機に、節電モードが日常生活を一変させる。昨年までも「クールビズ」は細々と実行されていたが今年はさらに進んだスーパークールビズ。日本の蒸し暑い夏にスーツにネクタイ、かねてから疑問に感じていたが「やればできるじゃないか！」と拍手喝采である。エアコンの設定温度は28度、コンセント抜き、不要照明を消して歩く等々・・・私一人の努力は微々たるものかもしれないが、同様に感じながらも実行した人が多数いたからこそ、この猛暑を乗り越えられたのだと思う。「何とかなった」ということは、日本人は過剰に快適な生活を送ってきたということ。せっかく身についたライフスタイル、「喉元すぎれば何とやら」にならないようしっかり定着させてゆきたい。(K．Y／49歳／男)

改めて感じる日常の大切さ

震災の少し前に、義姉が孤独死をした。遺体は警察の安置所…家の中はそれは悲惨極まりないもので、非日常を目の当たりにした私は鬱状態になっていた。でもあの日3月11日、震災のニュース映像を見たときのあまりの衝撃、広がる被害、飛び交ううわさ。未曾有の大災害を前に、鬱々としてている場合ではない！！と強く感じた。映像で見ているだけでもこんなにつらいのに、現地で経験した人たちの痛み、苦しみ、これからやってくるだろうＰＴＳＤ…考えるだけで胸がつぶれる思いがした。何かしなくては！私にできることはあるの？気持ちはとてもざわつき焦っていた。そして何もできないままひと月ほどが過ぎ、私が出したこたえは、日々を普通に過ごすことだった。仕事やボランティアや家庭の生活、そんな私の日常をこなしていく。特別なことではないし、復興に直接結び付くことではないけれど、被災を免れた私たちのそんな毎日の積み重ねが、とても大切で、未来に繋がる大きな力、生きる力になっていくに違いないと信じている。

(N. S／女)

大震災にまさる力

生活の場を決めるとき何を優先するか。それは時代とともに、また文明の発達とともに変化してきているが、何といっても水との関わりは大きな要素になっているのではないだろうか。日本列島に見られる旧石器時代からの遺跡分布を見ても裏づけされると思う。特に海に囲まれた日本では大都市の多くが海に近い。そして、そこを居住地から除くことはできないのではないか。かつて岩手県田老町の巨大な防波堤の前に立ったことがある。人間の力で最大限防ぐ目的で作られた巨大防波堤も大津波のエネルギーを止めることは出来なかった。人間はさまざまな経験を通して、知恵を出し、自然の脅威に対処してきた。地震国日本ではどこに住んでいても安全という所はない。もちろん、科学の進歩で地震予知が可能になれば一時的な対応は可能であろう。しかし、そこにも限界があると思う。でも、今回の大震災後、人と人とのつながりが何にもまさる大きな力になっていると実感している。日常の生活の中でもう一度そのことを自らに問うてみたい。

(H. N ／ 70歳／男性)

避難所での生活相談をとおして学んだこと

3.11の後、３月末～６月末迄の4ヶ月間、神奈川県が被災者等を受け入れた避難所で、神奈川県社会福祉士会として相談コーナーを設置し、延べ74件の生活相談にあたりました。

入居者約90名は、住まいも職業も失い、行政手続き等したくても証明書類も何も無い状況の中、見通しの立たない日々に焦りや不安が漂っていました。新学期を前に、子供の入学入園に関する相談が多く、また、子どもの大切な品の全てを失ったと涙ながらに訴える母親もありました。時に感情的になる子供には、絵本を読んだり遊びをとおして関わり、それをきっかけに母親との信頼関係が出来て行きました。被災者からの相談が無い日もあれば、必要な時には開始時刻を待つようにして相談に来られました。このことから、被災者が自らの力を発揮し歩み出される過程で、必要な時に相談できる場が継続的に存在し続けることの大切さを学びました。（M. S ／ 63歳／女)

インフォメーション

【日誌　2011.5～2011.10】

2011年

5/07　相談員委員会
09　内部監査
10　フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」
18　理事会・評議員会
20-22　養成研修合宿
22　研修担当者会

6/02　相談関連部会
02　研修調整連絡会
03　日本いのちの電話連盟総会
04　相談員委員会
07　ホームページをよりよくする会
10　フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」

7/02　相談員委員会
05　ホームページをよりよくする会
07　相談関連部会
10　フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」
11　「事業報告」発送
14-15　いのちの電話全国事務局長会議
16　全体研修
30　全体研修

8/04　相談関連部会
05　心理専門相談運営委員会
05　エイズ文化フォーラム開会式
06　事業報告説明会
10　フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」
16　理事連絡会
19　フリーダイヤルプロジェクト会議

9/01　相談関連部会
03　相談員委員会
05　広報誌企画会議
09　自殺予防週間チラシ配布　JR横浜駅
10　フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」
11　いのちの電話震災ダイヤル開始
13　理事会
15　ホームページをよりよくする会
23　研修担当者会

10/01　相談員委員会
1-3　電話相談員全国研修会　北九州大会
05　公開講座（桑原寛氏）
06　相談関連部会
06　フリーダイヤルプロジェクト会議
07　理事会・評議員会
10　フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」
11　公開講座（福山清蔵氏）
12　ホームページをよりよくする会
14　理事会
20　公開講座（山口和浩氏）
25　公開講座（河西千秋氏）
28　秋のコンサート（出演：トリオ・リベルタ）
29　相談員の集い

編集後記　10月1～3日、北九州で開催された「いのちの電話全国大会」に参加してきました。被災された盛岡、仙台、福島、茨城からもたくさんの仲間がいらしていて、さまざまな思いをお聴きしました。そしてなにより、北九州の仲間の温かいおもてなしの気持ちが伝わってきて、本当に嬉しかったです。来年は北海道札幌だそうです。是非行ってみませんか？ I.S

クリスマス・歳末募金のお願い

昨年は2,618,825円の募金がありました。皆様のご協力に感謝いたします。今年度もよろしくお願いいたします。ご寄付は税法上の優遇措置の対象となり、法人は損金算入、個人は寄付金控除が受けられます。

振込先　郵便振替　00240-3-15191
社会福祉法人 横浜いのちの電話
（振り込み手数料は無料です）

社会福祉法人横浜いのちの電話

2012年度 電話相談ボランティア募集

かけがえのない生命を尊重し
対話する電話相談ボランティアです。
あなたも参加しませんか！！

電話相談ボランティアは、1年間の養成研修修了後、電話相談員として認定されます。

【応募資格】　年齢**23**歳から**65**歳まで（2012年3月31日現在）
【応募期間】　2011年12月1日（木）～2012年2月2日（土）
【募集人数】　**40**名
【研修期間】　2012年4月～2013年3月
【研修受講料】　7万円（3回分割納入）
【応募方法】　**90**円切手を同封の上、事務局へ「募集要項」をご請求ください。
●ホームページでも入手できます。
http://www.yind.jp/

〒240-8691
日本郵便保土ヶ谷支店　私書箱32号

公開講演会

20011年度　自殺予防のための厚生労働省補助事業　公開講演会

「東日本大震災から見えたこと」

講師　マリ・クリスチーヌ氏
（異文化コミュニケーター　国連ハビタット親善大使）
日時：　2012年1月27日(金)　19時～
場所：　横浜市神奈川区民文化センター かなっくホール
参加費：無料　　定員：300名
受付は11月21日(月)から電話にて事務局まで
☎ 045-333-6163（月～金9時～17時）

新理事長告知

10月14日の理事会に於いて、任期満了に伴い、榊原高尋前理事長に代わり、永野　肇（現事務長）が新理事長に就任しました。

神奈川県共同募金会からの配分金

23年度は広報誌・事業報告の制作費に充当します。

横浜いのちの電話　春の映画会

●日時　2012年**3**月**9**日（金）
1回目/**14:30**　2回目/**18:30**
●会場　関内ホール（大）全席自由
●チケット代　**￥1,000**
お申込み・お問合せ　☎ 045-333-6163

涙も忘れて心が躍る、小さな村のハレ舞台。
雄大な南アルプスの麓にある長野県大鹿村。この地で300余年以上の歴史を持つ地芝居“大鹿歌舞伎”。美しき日本の山村で「芸能の原点」を守ってきた人たちの、ホロ苦くもオカシミあふれる群像劇。

毎月10日は フリーダイヤル

0120-738-556（こころ）

毎月**10**日8:00～翌日8:00　24時間・無料です
あなたがつらいとき、近くにいます。ひとりで悩まないで、こころの苦しみをお話し下さい。
自殺予防　いのちの電話です

ひとりぼっちで悩まずに…

だれかと話したいとき　こころ寂しいとき

横浜いのちの電話相談
045-335-4343（24時間体制）
●ファクス相談（聴覚言語障害者のための）045-332-5673
●エイズ相談　045-335-4343

外国語電話相談
●ポルトガル語　045-336-2488
●スペイン語　045-336-2477

http://www.yind.jp/

この広報誌は共同募金の配分金で製作いたしました。